

武蔵野市第六期長期計画策定委員会
関係団体意見交換会（文化・市民生活）

日 時：平成 31 年 2 月 9 日（土） 午後 1 時 31 分～午後 3 時

場 所：市役所 811 会議室

出席委員：小林委員長、渡邊副委員長、大上委員、岡部委員、久留委員、中村委員、松田委員、保井委員、笹井委員、恩田委員

事務局が、討議要綱、意見交換会の進行、意見の扱い、今後のスケジュールについて説明し、策定委員会委員の自己紹介の後、意見交換がなされた。

【境西交会】 防災についての項目は、討議要綱（3）「文化・市民生活」の 13）にちょっと書いてあるだけだ。一番大きな項目に上げるべきではないか。

1 月 15 日付市報を見ると、市政アンケートの結果、重点的に進めてほしい施策の 1 位が「災害・危機に強いまちづくり」で、40%を占めている。一方、評価できる施策にこの項目は出てこない。市民の希望と実際のギャップが非常に大きいのは、このアンケート結果を見ても明らかだ。

防災について、公助・共助・自助のうち、共助・自助、自分たちでやるのが圧倒的に多いと言われる。公助は確かに限界があるが、公助の部分でやることはあるはずだ。市にも相談しているが、縦割り行政で、対震災で一本化されてない。30 年間で起きる確率が 70～80%と言われているのに、取り上げ方が大ざっぱ過ぎる。最大のテーマとして取り上げて、武蔵野市の姿勢を示すことが必要だ。

【A 委員】 その件は非常に重大なテーマで、委員会の中でも議論を重ねてきた。アンケートのことも承知している。基本目標として、誰もが安心して暮らし続けられるまちをつくりたいということがまずある中で、災害対応はすごく重要なことだが、安心して暮らし続ける上での 1 つの話で、ほかにも重要なテーマがあり、それで安心して暮らし続けることができる。

この後、基本目標を調整するかしないかも含めて、再度議論したい。ただ、13 番目というのは別に意味があるわけではなく、読みやすさを考えてこのような順番になっているのであり、重々、重要性は踏まえている。

【東部防災会】 市報の 2 ページ目「第五期長期計画の実績と評価」の中で、三駅周辺の整備は着実に前進したとあるが、三鷹駅の北口のロータリーは機

能不十分で、事故の危険性等が前々から考えられていた。加えて、障害者用のゼブラゾーンがバスとタクシーの間に挟まれており、ゼブラゾーンにレモンキャブをとめると、バスからクラクションを鳴らされたり、タクシーから怒鳴られたりして、福祉車両に対する意識の低さを感じられる。そこから辺の指導をしていただきたい。と同時に、吉祥寺・三鷹・境の三駅に福祉車両が安全に、しかも雨等考えると、屋根つきの停車場所を設置していただきたい。

「第五期長期計画の実績と評価」の下のほうに、「限られた経営資源を最大限有効に活用していく一層の創意工夫が求められる」と書かれている。武蔵野市には美術とか芸術にぬきんでてすぐれた方が数多くおり、寄贈されたものが数千点、市民の目に余り触れることなく、どこかの倉庫を借りて管理委託料を払い、所蔵されている。ここら辺は、ふるさと歴史館、また老朽化した公会堂をいずれ取り壊して建て直したときに、統合したものを考えていただきたい。

【B委員】 市として、交通バリアフリー基本構想とか、今、地域公共交通のあり方の検討などを行っているので、そういう中で整備されると私も市民として認識している。

三鷹駅に関しては、これから整備が進んでいく中で、短期的にできることと中長期的にできることを整理しながらやっていく形になると思うが、ご意見として拝聴したいと個人的には感じている。

【C委員】 三鷹駅北口の障害者用ゼブラゾーンは、従前は福祉車両もとめられないような状況で、5年前に設けたが、スペース的な意味も含めて空間として若干足りない。これは重々承知しているので、今後十分に対応していきたい。

【委員長】 文化振興基本方針の策定にかかわった関係でお話しするが、確かに武蔵野市は美術品とか収蔵品を結構持っていて、倉庫を借りて保管している。そこもいっぱい、実際には収蔵の依頼を受けてもお断りしている状況だ。また、収蔵されている作品を十分に使いこなしているかという点、限られた美術館のスペースで行われているのが現状だ。歴史館、公会堂の問題等もあり、文化振興の分野で考えていくことかと思う。

【西部コミュニティ協議会】 22 ページ（3）の1）「時代に合ったコミュニティのあり方検討と市民活動の連携」について、コミュニティ構想は表現が難しい。社会環境が大きく変わり、働き方も変わった。これからの市民活動のあり方を反映するためにも、コミュニティ構想を新しくしてほしい。

【A委員】 確かに読みにくいものだと、私自身も思う。ただ、すぐに新し

いものにできるかというところ、かなり難しいところがある。そういったことも含めて、内容や表現が少し難し過ぎるので、これからの時代に合わせてどうしたらいいかを考える必要があることは私も重々認識しているので、その点を宿題として持ち帰りたい。一方、いきなり新しいものにするというより、どう読みこなしていくか、そちらのほうのアイデアもお考えいただけると、後々非常に助かる。

【吉祥寺北町五丁目町会】 私は長いこと、武蔵野に住んでいるが、最近の武蔵野市のイメージは変わってきている。何かおかしいなという感じが非常に強い。この十数年で、武蔵野市でなくなったものは夢だ。長期計画はそういう夢を語るころかなという気がする。

夢は一人ひとり違うが、武蔵野独特の何かがあるとか、武蔵野はそんなにすごいのかとか、そういうものがあってほしい。行政の長期計画は非常に素晴らしいことだし、ぜひやっていただきたいが、これはほかでも同じで、私に言わせれば当たり前のことだ。

私が提案したいのは武蔵野公会堂で、あんなにいい場所にある。あそこに20階建てくらいの豪華なビルを建てて、武蔵野市に公会堂ありというものをぜひやっていただきたい。そうすると、あそこに人が集まり、経済効果も大きい。

老人のたわごとで、別に公会堂でなくてもいいが、何か夢のある長期計画を出していただきたい。提案としては、公会堂を立派なものに建て直してほしい。

【A委員】 夢を承った。

【ジモッピーネット】 境にある武蔵野市民会館を、社会教育施設として第六期の長計にもきちんと位置づけていただきたい。武蔵野市民会館は、世代を超えて広く市民に学習の場として利用されている。1つは発表の場で、秋の文化祭は、展示、公開学習、芸能発表、市民会館が開く特別講座、市民団体が企画した講座等々、盛大に1週間行われる。

当団体は、市民会館と地域をつなぐことをモットーとして活動している。地域をよくしていくためには、みんなでワイワイと話して、情報交換しながら活動することが大事だ。

私はコミュニティ未来塾に参加して、協議の場を運営することを学んだ。地域課題の解決にはみんなで学ぶことは欠かせないので、そのための市民会館の役割はきちんと第六期の長期計画にも書いていただきたい。

【委員長】 五期の調整計画のときに市民会館は結構話題になったが、今回はこの策定の中でも話し合っていない。社会教育施設として継続してやっていくことは、書かれてなくてもやっていくわけで、わざわざ書かないと、何か困ってしまうことがあるのか。

【ジモッピーネット】 コミュニティ未来塾みたいな新しい場があるからいいみたいに捉えられてしまう。そうじゃなくて、市民会館もきちんと書いていくことは絶対必要だ。そのことを皆さんが意識していない。今回の長計でも話題にも上らなかったことは大問題だ。

【委員長】 このままだとなくなってしまうという大問題だが、基本的に継続して行っていくことは書かれてないということだ。

【ジモッピーネット】 五期では、この後検討するみたいな書き方になっていた。その評価に、検討した結果どうだったの一言もない。もしもこの評価に、大変よいので今後も継続するとなっていたら、私もこんなふうに言わなくてよかった。

【副委員長】 第五期のときの書き方は、武蔵野公会堂や市民会館については、どちらかという役割を見直す可能性があったと私は考えている。今回その議論が削られていることは、少なくとも現時点では、市民会館についての見直しは行わないという形で考えてもいいのではないかと。

より積極的に社会教育施設として再評価をし、その機能を強化していくべきではないかという意見については、我々としては承って、まずは議論の俎上に上げていきたい。

【武蔵野市国際交流協会】 11)「在住外国人支援」についての3行目「在住外国人を生活者として捉え」という表現について、在住外国人が見たら、今まではどうしていたのかという話になってしまうという危惧がある。

「日本人の協会支援者会員獲得に努めるとともに」というところは、日本人会員が少ないということだと思うが、今でもボランティアで活動している外国人はいっぱいいるので、日本人に限らないほうがいい。

文化振興基本方針について、外国文化の紹介というところが触れられてないが、その辺はどうなるのか。

【A委員】 「在住外国人を生活者として捉え」については、近年、働き手あるいは観光客としてというのが目立つようになっている中で、そうではなくてともに暮らす方々としてというところを強調したいことから、こういう文面になった。

日本人の支援者というところは、お考えのとおり、日本人会員が増えてほ

しいというところだが、配慮が足らなかったようにも思うので、宿題にさせていただきます。

【委員長】 文化振興基本方針は、全ての様々な活動に通底するように、それぞれの課が考えてくださいという部分があって、特出しとして例えば外国文化を紹介するとかいうことはしていない。ただ、それぞれの課の事業に文化に密接にかかわる部分があって、特に国際交流はまさにそういう分野だ。

それがどのように実際に課の中で運用されていくかは今後の課題で、それを評価する軸はまだ決まっていない。それが今後担当部局でどうつくられていくのか、私たちも期待するし、課題として投げかけていかなければならない。

【むさしのFM市民の会】 3)「未来へつなぐ平和施策の推進」について、平和についての一項目があることは、武蔵野市としては当然のことだし、大変ありがたいことだ。平和について語ることは、生活そのものだと思う。「平和の大切さを次世代に伝えていく必要がある」とあるが、高齢化している中で、どうやって伝えていくかという工夫も必要だ。それから、「これからを担う若年層の関心が向く内容を研究する」とあるが、どちらも漠然とし過ぎている。もう少し踏み込んで、子どもたちの平和教育を進めるということが入っているとありがたい。

子どもどものときの学習が大事だ。平和だからこそ、いろいろ考えられる、生活できるというところを強調していただきたい。

【A委員】 平和推進の部分については、委員会でもかなり話をして、重要性は認識している。

教育との兼ね合いでは、武蔵野市民科の中で、武蔵野の歴史と合わせる形で平和教育みたいなことが具体的には可能になっていくと思われるが、そうしたことを具体的に計画するのはこの委員会ではなく、この後の学校教育の場になる。8月の原爆のこともほとんど知らない学生が珍しくない中で、武蔵野で育つ子たちに、地元根づいたものとして理解してもらうことは非常に大切なことだ。

【副委員長】 経験者が高齢化していき、経験をお話しいただく機会が減っていく。ご健在のうちに少しでも多く汲み取ることができるように、どんどんご意見やご提案をいただき、一緒に平和施策を推進できていければと思う。

【緑町パークタウン自治会】 コミュニティと自主防災力の向上は、切っても切れないことだ。緑町パークタウンは、855世帯、1,600人以上いて、

自主防災組織をつくって活動しているが、これからやらなければいけないことがたくさんある。地域ごとにいろいろな自治会とか町内会とか団体があるので、実情に合わせた防災力の向上について、ご指導、ご支援いただきたい。

安心・安全なまちづくりという点では、継続的な取り組みが必要だ。地域が継続的に課題解決に向けた力を発揮できるという視点もぜひお願いしたい。

【A委員】 昨年来、災害が続いて、市民の中でも防災意識が高まっている。自分の身は自分で守ることが必要だということがよくわかった上で、どうやって地域として協力し合いながら備えていくかに意識が向いているからこそ、それをどうつなげていくか、行政がどういう形で支援していくかということが非常に届きやすくなっているのではないか。具体的に市がやることを計画にどう具体化していくかを、この後、詰めていきたい。

【委員長】 具体的な支援のイメージがあればお聞かせいただきたい。

【緑町パークタウン自治会】 防災の関係では、自主防災組織は非常にたくさんできている。1つ1つの防災力を向上させていく意味で、きめ細かい支援がまだない。

コミュニティの関係では、まちづくりとか地域活性化で地域が動くときに、ほとんど助成がない。どういう事業だったらどういう支援があるのかも知りたい。

【大野田防災会】 現実に災害が起きた場合には、小学校とか中学校に避難所を設立するが、特に中学校の場合に、構造的にバリアフリーになってなくて、避難所として不適格なところがある。どちらかという市は、教育は教育、建築は建築と、縦割りになってしまっているもので、実際に動くときに、横の連絡をぜひお願いしたい。

【緑町三丁目町会】 武蔵野市には町会に対する位置づけがないような感じがする。全市に町会があるわけではないので、コミュニティ構想ができたことは知っているが。

私どもの町会は160世帯が加盟して、防犯パトロール、地域の子どものイベント、高齢者世帯への声かけ、自主防災組織と、年間を通じて日々の暮らしに密接した活動をしている割には、市との関係性が余りないのが実態だ。地域活動に対する何らかの支援があるといいなと思う。

防災の支援の具体的な中身として、専門家とか助言者を派遣して、避難所運営、自主防災組織の運営力を高めていただければありがたい。

【副委員長】 武蔵野市は、一般的な自治会や町内会といった、区域ごとに

全戸が加入していることを前提にした、行政の準公共的な組織を設定していない。これは1971年の第一期長期計画のころから、それをポリシーとしてやってきたので、今から導入することは難しい。

ただ、一切支援ができないということではなくて、防犯とか防災とかイベントとか、それぞれのことに関する支援は今後も可能であろう。地域の団体だから支援するという仕組みは、現時点では我々策定委員会としては考えていないし、私の感覚としては難しい。地域の団体が様々な活動をやられていることは非常にありがたいが、支援の仕方は、いろんな事例等も踏まえながら丁寧に議論したい。

【D委員】 防災と、被災をした後の対応と、両方ある。被災しても、元気な高齢者は自分で逃げることができるが、病院や施設に入居なり入院されている方々を避難させようとすると、まず人手が足りない。これだけ災害を経験しても、我が国はまだこの問題を解決できていない。市民の生命、財産を守ることが市の一番大事な役目、大前提であると考えて、委員会では議論している。

【委員長】 これは個人的な意見だが、防災のための活動を支援するとか、事業のイベントをするとかいうことはできていると思うが、意外と難しいのが、組織を運営していくための運営費の部分で、運営費をどうやってみんなが担っていくのか。どこに行ってもそういう問題が出る。町会の領域でも出ているんだと改めて考えさせられた。

【E委員】 皆さんのおかげで市内の全学校に避難所運営組織をつくることのできたと感謝している。そこに対する補助金が余りにも低額ではないかというご意見については、重く受け止めて持ち帰らせていただきたい。避難所としてのアメニティについては、来年度中に各学校の体育館に冷暖房装置をつける方向で検討している。ただし、自助・共助・公助という形で、環境整備はするが、最低限の災害対応はご努力いただいて、あらゆる重層的なものを駆使しながら災害対応していくしかない。

【F委員】 今回は文化・市民生活なので、防災の関心が非常に高いことはわかるが、そこら辺はこちらもかなり議論しているので、ご安心いただきたい。

これは僕の個人的な意見だが、武蔵野市は文化を育むのに非常にいい媒体の人たちがたくさんいるので、個別にやっているのではなく、世代とかいろんなものを超えて、ネットワークをよろしくお願いしたい。

今後は外国人が増加傾向にある。国際交流協会の方だけでなく、皆さんが積極的に地域の外国人の方と連携して、多様な文化を育んでいくことをお願

いしたい。それがひいては災害時の防災とか日々の防犯に必ずつながっていく。

【NPO法人クリエイティブライフデザイン】 2年前から、美術館へ行って、視覚障害者と一緒に会話型で絵を見ろという活動、ソーシャルアートビューをやっているが、声を出して鑑賞することは、美術館でもまだまだ浸透していない。

それをもっと広めたいので、練習を兼ねて、プロジェクターでグーグルのアート・アンド・カルチャーで世界中の美術館の絵をピックアップしてやっている。武蔵野市には美術品がいっぱいあるので、そういう場を借りていろんなことをやってみたい。

【アトリエ・コスモ】 私は、武蔵野市民会館で、市民の絵画サークルの活動をしている。市民会館では、年に2度、各団体の意見交換、要望事項を出しているが、予算がないということで、ここ数年実現していない。

市の所蔵品、美術品を倉庫に眠らせておくのはもったいないので、市役所の廊下とか、いろいろな施設で飾ることを心がけていただきたい。

41 ページに満足度とか要望事項が出ているが、私が55年住んでいる中で、当初は東高西低で、吉祥寺から境のほうに行くと、格差をつけられている感じがした。各地域の実態に即した要望事項や満足度を出すといった、きめ細かな市政運営が望まれる。

【千川地域防災会】 武蔵野市は文化レベルが高くて、いろんな夢も語れる。それは本当に楽しいが、そうであればあるほど、防災の話が埋没しそうなので、あえて申し上げたい。市民の意識調査で一番関心の高い防災に対して、こういう総花的な表現でなくて、弱者への対応の具体的なところを少しでも挙げていただけると、自主防災組織で愚直に活動している我々としては非常に励みになるので、ぜひお願いしたい。

【劇団芝居屋楽屋】 私の所属する劇団は、昨年、社会教育関係団体に登録していただいた。

我々は、演劇を通して、武蔵野市に何が貢献できるかを考えている。時代に合ったコミュニティとか多様性、戦争の悲惨さ、平和の大切さを伝えることで、ぜひ貢献していきたい。また、積極的にこういった話し合いの場に参加して、武蔵野市の発展に貢献できるような活動をしていきたい。

【NPO法人ハーモニカ横丁東京】 ハーモニカ横丁という吉祥寺の横丁は外国人が大量に来て、すごく盛り上がっている。外国人がうちの店だけでも100人近く働いている。しかし、防災にめちゃくちゃ問題がある。2週間前にもボヤ騒ぎがあった。武蔵野市も、あるいは東京都も、東京中の横丁、ハーモニカ横丁に目を向けてほしい。

【武蔵野市国際交流協会】 熊本地震のとき、外国人にどのように地震を伝えるかが大きな問題になった。解決方法として、1つはメールを使って発信、もう1つは、日ごろの目の届く距離での日本人との交流が挙げられる。国際交流協会では、まずは我々が武蔵野のまちに出ていくということで、お祭りがあるたびに参加をして、外国人の方々にいろいろな店を出してもらっている。

さらに、各学校、コミュニティセンターから要望があると出ていくという具合に、我々としては、外国人と日本人が手を取り合って活動することを目指している。これからは外国人を支援するだけではなくて、外国人から何か支援を受ける、あるいは何かをもらう、そういう目で見ただけだとありがたい。

【委員長】 私は、アートも防災と同レベルで大事だと思っている。決して防災が大事でないと言っているわけではない。アートでコミュニティがつながって、重層的になっていくことがすごく大事だ。

文化振興基本方針を実践するのは行政のほうの人たちではなく、皆さんみんなにすごく意識のある市民の人たちだ。私もそれに加わりたい。

【A委員】 災害時の様々なデマを防ぐためには、何よりもみんなが知っておくことであり、お互い顔が見える関係を築いておくことが一番重要だ。

【F委員】 先ほど文化とネットワークをアピールしたが、防災を軽んじているわけではない。多様な文化レベルで人と人がつながっていたら、いざ、何か起こったときには、非常に強い。

【G委員】 文化も防災も非常に重要だ。この前提の上で、個人的意見だが、六長において、武蔵野市の産業振興をしっかりと考えて位置づけることを問題提起したい。また、武蔵野市の産業振興という観点でも、ハーモニカ横丁は極めて重要な存在で、ハーモニカ横丁を中核とした都市型観光、インバウンド観光の可能性も、この委員会で議論していきたい。

【委員長】 書面でもメールでもいいので、意見をお寄せいただきたい。

事務局が、意見交換会終了後の追加意見の提出方法を説明し、文化・市民生活分野の関係団体意見交換会を閉じた。

以 上